UENO Toshihiko; uenot_gosudarstvo@yahoo.co.jp; http://www.geocities.jp/collegelife9354/index.html

2. 第 1 次世界大戦とブレスト・リトフスク条約

ロシアの暦　帝政ロシアはユリウス暦を使用していたので、西欧のグレゴリオ暦（西暦）に対し、18 世紀で 11 日、19 世紀で 12 日、20 世紀で 13 日遅れている。帝政崩壊の翌年、新政権が 1918 年 1 月 31 日の翌日を 2 月 14 日と定めて、ロシアの暦と西暦とが一致した。ロシア史では、通常、とくに断らない限り、1918 年 1 月 31 日までの日付はユリウス暦を用いている。したがって、2 月 27 日は、西暦では 3 月 12 日である。

1. 第 1 次世界大戦の開戦

1.1. 第 1 次世界大戦への道

1907 年 8 月　「英露協商」締結（ペルシア、中央アジアにおける利害関係の調整）
1908 年秋　オーストリア=ハンガリー、ボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合
1911 年 8 月 19 日　「独露協定」締結（ペルシア問題に関する利害調整）
1911 年 9 月　リビアをめぐり伊土戦争勃発
　トルコ、ダーダネルス・ボスポラス両海峡をしばしば封鎖→ロシアの穀物輸出に障害→ロシア国内に両海峡支配の要求
1912 年 6 月　アルバニアで反トルコ反乱→トルコ、アルバニアの自治権を承認
1912 年 10 月　モンテネグロ、トルコに宣戦布告
　トルコ、急遽イタリアと講和
　セルビア、マケドニアの大半を占領、モンテネグロ、ギリシア、アルバニアを占領（第 1 次バルカン戦争）
　アルバニアの独立
1913 年 5 月　トルコが屈服し、講和
1913 年 6 月　マケドニア分割をめぐり、セルビア・ギリシアはブルガリアと対立（第 2 次バルカン戦）
1913 年 8 月　ブルガリアが屈服し、講和（ブルガリアは領土を失う→ブルガリアはドイツ、オーストリア・ハンガリーに接近）
　セルビアはオーストリア・ハンガリー領内の南スラブ人の解放をめざし、反オーストラリア=ハンガリー、親ロシアに傾斜

正教徒の南スラブ人がオーストリア=ハンガリーと対立する状況は、スラブ人・正教徒の盟主を自認するロシアを必然的にオーストリア=ハンガリーとの対立に引きずり込んだ。
ロシアの工業資本家はドイツ工業との対抗意識を持っており、地主は穀物輸出をめぐってトルコとそれを支援するドイツに敵意を持つようになった。

1.2. 第 1 次世界大戦の開戦

1914 年 2 月 12 日　親英・親独派のココフツォフ首相が辞任し、反独派のゴレムィキンが首相に就任
1914 年 6 月 28 日　ボスニアのサラエヴォで民族主義者のセルビア人青年がオーストリア皇位継承者フランツ・フェルディナント夫妻を暗殺
　事件の背景にセルビア政府がいるとの憶測が流れ、新聞がそれを拡大し、ドイツに広まる
1914 年 7 月 23 日　オーストリア=ハンガリーが、セルビアに時限付き最後通牒
1914 年 7 月 24 日　ロシア外相サゾーノフが、大臣会議でセルビア支持を強硬に主張。大臣会議は、オーストリア=ハンガリーに 48 時間の延長を、セルビアには譲歩を求める。
1914 年 7 月 25 日　オーストリア=ハンガリーが、セルビアと外交関係断絶
　ロシアは厳戒態勢に入る
1914 年 7 月 28 日　オーストリア=ハンガリーが、セルビアに宣戦布告
　ロシアは部分動員を開始
1914 年 7 月 29 日　ドイツが、動員令を発令し、ロシアには部分動員解除を要求して、威嚇

ロシアは、外相・参謀総長が総動員を要求、首相は反対したが、ツァーリは総動員を決定

1914 年 7 月 30 日　ロシアが、総動員令を発令。ドイツも総動員令を発令
1914 年 7 月 31 日　ロシアが、御前会議で開戦を決定
1914 年 8 月 1 日　ドイツが、ロシアに宣戦布告
1914 年 8 月 2 日　ロシアが、ドイツに宣戦布告
1914 年 8 月 3 日　フランスが、ドイツに宣戦布告
1914 年 8 月 4 日　イギリスが、ドイツに宣戦布告
1914 年 8 月 6 日　オーストリア=ハンガリーが、ロシアに宣戦布告

2. 第 1 次世界大戦とロシア革命（日付はロシア暦）

2.1. 第 1 次世界大戦とロシア帝国

1914 年 7 月 26 日　国会臨時会議で国会議長ロジャンコ、「ツァーリと忠良なる臣民の一体化」=挙国一致体制
1915 年夏　戦時下の困窮とロシア軍の敗戦→政府と国会の団結の崩壊→政府批判の激化と「国民信頼内閣」創設要求の高まり→内閣改造
8 月　ツァーリ・ニコライ 2 世、ロシア軍最高総司令官に就任、大本営をベラルーシのモギリョーフに移す
国会内「進歩ブロック」の形成=国会議員の 3/4 が加入
綱領=「国民信頼内閣」創設、改革と恩赦（政治犯釈放）の実施
1916 年 1 月以降　首相交代相次ぐ
労働者のストライキ多発
10 月 17～20 日　ペトログラートで高物価・戦争反対ストライキ
12 月　政府、反対派に対する抑圧を開始
1917 年 1 月以降　ペトログラートで断続的にストライキとデモ
2 月 23 日　ペトログラートの騒乱状態激化
25 日　ツァーリによる第 4 国会停止勅令（上下両院「休会」令）の発令
27 日　国会、同日朝、停止勅令受領。国会議員、国会臨時委員会創設
深夜　国会、政府省庁の接収を実施
ツァーリ、首相ゴリツィンの電報により、首都の反乱を知り、軍に首都進撃を命じるも、兵士が動揺し、軍は命令遂行不可能に
28 日　国会臨時委員会、新政権成立のアピール
3 月 1 日　臨時政府成立
2 日　ニコライ 2 世、弟ミハイールへの譲位を決意
3 日　ミハイールは即位を辞退→帝政崩壊

2.2. 臨時政府の対独戦方針=戦争の継続

革命的祖国防衛主義
ドイツ軍への敗北はすなわちドイツ帝政への敗北である
その敗北は、ロシアの帝政を打倒し立憲共和制をうち立てようという 2 月革命の理念の敗北を意味する
→ドイツ帝政に敗北してはならない
臨時政府を構成する立憲民主党（Кадет）、社会主義者=革命家党（CP）、メニシェヴィキ（社会民主主義労働党メニシェヴィキ派）はもちろん、政府外のボリシェヴィキも「革命的祖国防衛主義」を主張

2.3. レーニン「4 月テーゼ」

①「革命的祖国防衛主義」の否定
②対臨時政府協調主義の否定
③「全権力をソヴィエトへ！」
ボリシェヴィキ、夏までに「革命的祖国防衛主義」から「4 月テーゼ」路線に転換

2.4. 臨時政府の権威の低下
①戦争に勝利できない→軍隊および地方に対するコントロールを失う
②社会的緊張の激化（経済崩壊と戦争継続が原因）
③コルニーロフ反乱（1917 年 8 月）
反乱にカデットが関与の疑い・ボリシェヴィキの協力なくして反乱の鎮圧できず→臨時政府の権威の失墜→ソヴィエト内の対臨時政府協調派の影響力低下（ソヴィエトのボリシェヴィキ化）
④ペトログラート駐留兵士の反政府意識の激化
兵士の厭戦気分の増大、兵士は前線への出発望まず

2.5. ボリシェヴィキの権力奪取=休戦へ

1917 年 10 月 25 日　ボリシェヴィキに指導されたペトログラート守備隊・赤衛隊の武装蜂起（重要拠点の占拠）
武装蜂起指導機関→ペトログラート・ソヴィエト軍事革命委員会（議長トロツキー）
深夜　第 2 回全ロシア労働者・兵士代表ソヴィエト大会
エスエル、メニシェヴィキ、武装蜂起に抗議して退場
ボリシェヴィキ、左翼エスエル中心に議事進行
①ソヴィエト政権樹立を宣言
②「平和についての布告」と「土地についての布告」を採択
「平和についての布告」=講和交渉の即時開始をすべての交戦国の政府と国民に提案し、講和の条件は、無併合、無賠償、民族自決とし、さらに秘密条約の公表と休戦協定の即時締結を提案
③臨時労農政府＝ソヴィエト政府＝人民委員会議（ソヴナルコム Совнарком）樹立

3. ブレスト・リトフスク講和条約（日付は西暦）

＊「共産党」は、正確には 1918 年 3 月までは、ロシア社会民主労働党ボリシェヴィキ派、その後、ロシア共産党（ボリシェヴィキ）と改称、ソ連邦結成後に、全連邦共産党、さらにソ連邦共産党となる

3.1. 休戦・講和交渉の開始

1917.12.15　ロシアと、ドイツ、オーストリア=ハンガリー、イタリアとの休戦協定調印

ロシアは、連合国政府に対して講和交渉に参加するよう要請したが受け入れられず、単独講和に踏み切る

3.2. 講和交渉

ドイツ側は、「無併合」を受け入れたかに見えたが、実際には占領地域を「民族自決」を名目にロシアから分離することの承認を迫る

1917 年 12 月 31 日　ロシア政府（人民委員会議）、交渉引き延ばしを決定
1918 年 1 月 12 日　日本海軍、居留民保護の名目で、ウラジヴォストークに軍艦 2 隻を派遣
15 日　ロシア政府、赤衛隊を基礎に赤軍を組織する命令を公布
21 日　ロシア政府首相（人民委員会議議長）レーニン、「併合主義的単独講和の即時締結に関するテーゼ」を共産党幹部会議で発表し、ドイツ側の条件に基づいて講和条約を直ちに締結することを主張
会議出席者の半数は、「革命戦争」を支持
1/4 は外務人民委員トロツキーの「戦争もせず講和もせず」の折衷案を支持
24 日　共産党中央委員会、9 対 7 でトロツキー案を採択
2 月 9 日　ドイツ、ウクライナ中央ラーダ政府（民族主義政府）と講和条約締結を前提に、ロシアに最後通牒
トロツキーは 1 月 24 日の中央委決定の方針に従い交渉を打ち切り、帰国
16 日　ドイツ、18 日より戦闘再開を通告
18 日　共産党中央委、7 対 5（棄権 1）でドイツ案受諾を決定
23 日　ドイツ、講和条件を提示
ウクライナ、バルト 3 国の独立承認を迫る内容

回答は 48 時間以内

24 日　共産党中央委 7 対 4（棄権 4=トロツキー含む）でレーニンの主張が採択され、講和受諾を通告

徹底抗戦を主張するブハーリンら反対派、派閥「左翼共産主義者」を結成

3 月 3 日　ロシア、ブレスト・リトフスク講和条約調印（対ドイツ、オーストリア=ハンガリー、ブルガリア、トルコ）

15 日　第 4 回全ロシア・ソヴィエト大会、講和条約を批准

トロツキー、軍事人民委員に就任、赤軍建設へ

この頃　連合国側は、ロシアの単独講和締結を非難

英国軍、ムルマンスクに上陸

4 月 5 日　日本軍、ウラジヴォストークに上陸

8 月 27 日　補足協定締結（賠償金の支払い）

3.3.講和条約の概要

Мирный договор между Россией, с одной страны,
и Германией, Австро-Венгрией, Болгарией и Турцией — с другой (Брестский мирный договор) (1918)

ロシアと、ドイツ、オーストリア=ハンガリー、ブルガリア、トルコとの
講和条約（ブレスト・リトフスク条約）（1918 年）

Статья III 第 3 条

1) Области, лежащие к западу от установленной договаривающимися сторонами линии и принадлежавшие раньше России, не будут более находиться под ее верховной властью: установленная линия обозначена на приложенной карте...*, являющейся существенной составной частью настоящего мирного договора.....

第 1 項　双方により合意され定められた境界線より西方にあり、かつてロシアに所属していた諸州は、今後はロシアの最高権力のもとに置かれない。定められた境界線は、本講和条約の重要な一部である付図に示されている。（後略）

Статья IV 第 4 条

2) Россия сделает все от нее зависящее, чтобы обеспечить скорейшее очищение провинций Восточной Анатолии и их упорядоченное возвращение Турции.

3) Округа Ардагана, Карса и Батума также незамедлительно очищаются от русских войск.....

第 2 項　東アナトリア地方からの速やかなる撤退およびそのトルコへの秩序ある返還を保障するために、ロシアはできる限りのことをおこなう。

第 3 項　アルダハン、カルス、バトゥーム地区からもまたロシア軍部隊は即座に撤退する。（後略）

Статья VI 第 6 条

1) Россия обязывается немедленно заключить мир с Украинской Народной Республикой и признать мирный договор между этим государством и державами Четверного союза. Территория Украины незамедлительно очищается от русских войск и русской Красной гвардии. Россия прекращает всякую агитацию или пропаганду против правительства или общественных учреждений Украинской Народной Республики.

2) Эстляндия и Лифляндия также незамедлительно очищаются от русских войск и русской Красной гвардии. Восточная граница Эстляндии проходит в общем по реке Нарве. Восточная граница Лифляндии проходит в общем через озеро Чудское и Псковское озеро до его юго-западного угла, потом через Любанское озеро в направлении к Ливенгофу на Западной Двине. Эстляндия и Лифляндия будут заняты германской полицейской властью до тех пор, пока общественная безопасность не будет там обеспечена собственными учреждениями страны.

3) Финляндия и Аландские острова также будут немедленно очищены от русских войск и русской Красной гвардии, а финские порты - от русского флота и русских военно-морских сил.

第 1 項　ロシアはウクライナ人民共和国との和平を速やかに締結し、当該国家と 4 国同盟諸国との講和条約を承認する義務を負う。ロシア軍部隊およびロシア赤衛軍はウクライナ領から速やかに撤退する。ロシアはウクライナ人民共和国の政府および社会施設に反対するあらゆる扇動または宣伝を中止する。

第 2 項　ロシア軍部隊およびロシア赤衛軍はエストランド（現エストニア北部）およびリフランド（現エス

トニア南部および現ラトヴィア付近）からも速やかに撤退する。エストランドの東部国境は全体としてナルヴァ川に沿って置かれる。リフランドの東部国境は、全体としてチュード湖およびプスコフ湖の南西端からリュバーナ湖を経て西ドヴィナ川沿いのリヴェンゴフ（現ラトヴィアのリワニ）に至る。エストランドおよびリフランドは、社会的安全がそれらの国のしかるべき機関によって保障されるまでドイツの警察力のもとに置かれる。

第 3 項　ロシア軍部隊およびロシア赤衛軍はフィンランドおよびオーランド諸島（現スウェーデン領）からも速やかに撤退する。ロシア艦隊およびロシア海軍はフィンランドの港から速やかに撤退する。（後略）

Статья VII 第 7 条

Исходя из факта, что Персия и Афганистан являются свободными и независимыми государствами, договаривающиеся стороны обязуются уважать политическую и экономическую независимость и территориальную неприкосновенность Персии и Афганистана.

ペルシアおよびアフガニスタンは自由かつ独立の国家であるという事実に基づき、締結国はペルシアおよびアフガニスタンの政治的および経済的独立、ならびに領土の不可侵を尊重する義務を負う。

（出典：Документы внешней политики СССР, т. 1, М., 1957, с. 119-166.）

THE CAUCASUS REGION
RUSSIA
GEORGIA
TURKEY
ARMENIA
AZERBAIJAN
IRAN
Black Sea
Caspian Sea
KAZAKHSTAN
Krasnodar Kray
Stavropol' Kray
Karachay-Cherkessia
Kabardino-Balkaria
Chechenia
Groznyy
North Ossetia
Dagestan
Makhachkala
Abkhazia
Sochi
Adygea
Ajaria
T'bilisi
Rustavi
Yerevan
Erzurum
Gäncä
Baku
Sumqayit
Nakhichevan
Ardabil
Boundaries
International
Republic or kray
Transportation
Road
Airport
Railroad
Port
Energy resources
Oil well
Hard coal mine
Gas well
Brown coal mine
Elevation
Mineral resources
Alunite
Manganese
Gold
Molybdenum
Chromium
Lead
Copper
Tungsten
Iron ore
Zinc
Mercury
Populated places
Star symbol denotes capital city. Open circle denotes republic center.
T'bilisi Over 1,000,000
Groznyy 250,000 - 500,000
Trabzon 100,000 - 250,000
Dilijan
Less than 100,000
Lake Van (Van Gölü)
Produced by the Office of The Geographer and Global Issues, Bureau of Intelligence and Research, US Department of State.

Ardahan
Kars
Erzurum
Igdir
Erzincan
Agri
Tunceli
Bingöl
Mus
Malatya
Elazig
Bitlis
Van
Hakkari

なぜ過酷な条約を受け入れたか
　①革命の防衛（「革命的祖国防衛主義」とは異なり、休戦して革命を防衛する）
　②ドイツはやがて連合国に敗北する
　③ドイツ国内でやがて革命が起こる
　（とくに②と③は「交渉引き延ばし」論の根拠ともなったが。③はとくに楽観的予測にすぎなかった）
講和条約の教訓
　①戦争には勝たなければならない
　②講和交渉を有利に進めるためにも強力な軍事力が必要
　　→強大な赤軍の建設へ

3.4. 第 1 次大戦後のロシア・トルコ間の国境確定
①ブレスト・リトフスク講和条約（1918 年 3 月 3 日調印）
　締結相手国にはトルコが含まれている
②「ロシアと、ドイツ、オーストリア=ハンガリー、ブルガリア、トルコとのあいだで締結された講和条約に対する、ロシア・トルコ補則条約」（1918 年 3 月 3 日調印）
　国境確定のための合同委員会を設置。
　しかしその後、トルコ軍が、グルジア、アルメニアに侵攻し、ロシア・トルコ間の国交は断絶状態に。

Русско-Турецкий Дополнительный договор к Мирному договору, заключенному между Россией, с одной стороны, и Германией, Австро-Венгрией, Болгарией и Турцией - с другой. 3 марта 1918 г.
ロシアと、ドイツ、オーストリア=ハンガリー、ブルガリア、トルコとのあいだで締結された講和条約に対する、ロシア・トルコ補則条約（1918 年 3 月 3 日）
Статья II 第 2 条
1) Договаривающиеся стороны в течение 3 месяцев после ратификации настоящего договора образуют две смешанные русско-турецкие комиссии. Задачей первой комиссии является восстановление пограничной линии, разделяющей Россию и Турцию, начиная от места, где все три границы - русская, турецкая и персидская сходятся до места, где пограничная линия доходит до границ 3 санджаков: Карса, Ардагана и Батума. На этом протяжении комиссия будет руководствоваться пограничной линией, существовавшей до войны.....
第 2 条第 1 項　本条約批准後 3 カ月以内に条約締結国は 2 つのロシア・トルコ合同委員会を創設する。第一委員会の任務は、ロシア、トルコ、ペルシア 3 ヵ国国境の交差する地点から、カルス、アルダハン、バトゥーム 3 地方の境界に至る地点までの、ロシア・トルコ間の国境線の回復である。この地域においては、委員会は、戦前の国境線を指針とする。（後略）
（出典：Документы внешней политики СССР, т. 1, М., 1957, с. 199-204.）

③「ロシア・トルコ条約」（1921 年 3 月 16 日調印）
ロシア・トルコ間の国交断絶状態が終了し、両国間の国境線が画定される。
アルダハンとカルスはトルコに、バトゥームはロシア（グルジア）に、帰属することが決定される。

Договор между Россией и Турцией, 16 марта 1921 г.
Статья I
3) Северо-восточная граница Турции определяется: линией, которая, начинаясь от деревни Сарпи, расположенной на Черном море, проходит через гору Хедис-Мта, линией водораздела горы Шевшет-горы Каннин Даг, она следует затем по северной административной границе Ардаганского и Карского санджаков по тальвегу рек Арначай и Аракс до устья Нижнего Кара-Су (подробное описание границы и вопросы к ней относящиеся, определены в приложении I (A) и (B) и на прилагаемой карте подписанной обоими Договаривающимися сторонами).
Статья II
Турция соглашается уступить Грузии Суверенитет над портом и городом Батумом и территорией, лежащей к

северу от границы, указанной в ст. I-й нынешнего договора и составляющей часть Батумского округа, при условии что:

1) Население местностей, указанных в настоящей статье договора будет пользоваться широкой местной автономией в административном отношении обеспечивающей каждой общине будет предоставлена возможность установить земельный закон соответствующий его положениям.
2) Турции будет предоставлен свободный транзит всяких товаров, отправляемых в Турцию или из нее через Батумский порт, беспошлинно, без учинения каких-либо задержек и без обложения их какими бы то ни было сборами, с предоставлением Турции прав пользоваться Батумским портом без взимания за то специальных сборов.

（出典：Документы внешней политики СССР, т. 3, М., 1959, с. 597-604.）

4. 内戦・干渉戦争

4.1. チェコ・スロヴァキア軍団との衝突

チェコ・スロヴァキア軍は、オーストリア・ハンガリー帝国からのチェコ・スロヴァキアの独立を望んで、自発的にロシア軍に投降し、捕虜となった。
ブレスト講和後、シベリア経由で帰国することになったが、武装解除するか否かでロシア側と対立し、ウラルからシベリアにかけてシベリア鉄道沿線で武装蜂起。
これに呼応して、国内の反共産党勢力が武装蜂起。

4.2. 列国の干渉戦争の始まり

1918 年夏、日・米軍、チェコ・スロヴァキア軍支援の名目で、シベリア侵攻を開始し、東シベリアを占領。英国軍、ムルマンスクから上陸侵攻し、白海沿岸のオネガ、アルハンゲリスクを占領。

4.3. 干渉戦争の終わり

1919 年 11 月 8 日　英国首相ロイド・ジョージ、ロシアの平和を主張。13 日には下院で経済封鎖を非難
1920 年 1 月 16 日　連合国、対露経済封鎖を事実上解除
2 月 12 日　捕虜送還に関する英露協定